

たづるタイム(総合的な学習の時間)

## つながろう まち・人・自然

〈はじめに〉

本校では、5学年が総合的な学習の時間に、「つながろう まち・人・自然」をテーマに、地域の方や施設と連携した探究的な学習に取り組んでいる。学習の中心となる稲作学習では、地域農家の方々をはじめとする先生方の指導・支援のもと、調査や体験活動を行ってきた。また、学校近くの珍藏寺講堂を発表の場として活用し、学びを地域へ発信している。これらの活動を通して、子どもたちはふるさとへの愛着と自尊感情を高めている。

### 1. 稲作学習



【 5月 田植え(3~6年) 】



【 6月 田の周りの生き物観察 】



【 7月 稲の生育状況調査 】



【 9月 稲刈り 】



【 11月 収穫を祝う会 】



【 11月 学習発表会 】

田植えは機械を使わず手作業で行い、子どもたちは素足で田んぼの泥に入り、苗を植えた。また、収穫期には鎌を使った手作業による稲刈りを体験した。諸感覚を使った体験活動を通して、稲作の大変さや自然と向き合う感覚を実感し、米づくりや食への関心を高めることができた。

また、田んぼでの生き物探しや稲の継続的な観察活動を行い、稲作が自然環境と深く関わりながら成り立っていることを学んだ。稲の成長を見守る中で、作物を育てるには時間と手間が必要であることに気づき、粘り強く取り組む態度が育まれた。

収穫後には、農家の方々への感謝を伝える「収穫を祝う会」を実施し、学校の田んぼで育てた餅米(ヒメノモチ)を使った炊き込みご飯や味噌汁などを調理し、共に味わった。自ら育てた米を食する体験は、食の大切さや地域の支えを実感する機会となった。

さらに、学習のまとめとして稲作学習を劇で発表し、最後には農家の方への感謝と米づくりの苦労を込めたオリジナルソングを披露した。体験を表現活動につなげることで、学びを振り返り、理解を深めることができた。

本実践は、自然理解や食への感謝、地域への愛着を育むとともに、体験を基に考え、表現する力を高める学習となった。

## 2. 珍蔵寺での学習成果発表会



【 令和6年度 語り発表会 】



【 令和7年度 音楽発表会（合奏・合唱） 】



昨年度、語り学習を総合的な学習の時間に位置付け、その成果を地域に発信する場として、学校近くの珍蔵寺において語りの発表会を実施した。紅葉が見頃を迎える11月に開催したことで、保護者や地域住民、語り学習に関わった先生方など多くの来場者を迎えることができた。発表後には「感動した」「素晴らしかった」といった温かい感想が寄せられ、子どもたちは自らの学習の積み重ねが地域に認められたという実感を得た。この経験は、学習への自信や達成感を高めるとともに、「自分はできる」「この学級の一員でよかった」という自尊感情や自己有用感の向上につながった。また、地域の方々子どもたちの学びに直接触れる機会となり、学校教育への理解や関心を深める場ともなった。

今年度は、子どもたちが日頃の学習で熱心に取り組んでいる音楽科の学習を発表することとし、稲作学習で作成したオリジナル曲をはじめ、合唱や合奏を披露した。自らの強みを生かして表現する活動を通して、主体的に学習に取り組む姿が見られた。また、仲間と協働しながら一つの作品を創り上げ、それを地域に届ける経験は、子どもたちに大きな達成感をもたらすと同時に、地域の方々に活気をもたらす取り組みとなった。これらの実践を通して、子どもたちの成長を地域と共有することで、学校と地域が相互に関わり合いながら学びを深めていく教育活動の意義を確認することができた。

## 3. みんなで歌おう「タづるのふるさと」（全校生での取り組み）



令和5年度、本校は創立150周年を迎え、その節目の年に当時の6年生が制作した合唱曲「タづるのふるさと」を、地域全体で歌い継いでいきたいと考えた。そこで、「みんなで歌おう『タづるのふるさと』」と題した音楽の学習を行い、地域の方々に広く参加を呼びかけ、児童と地域住民が共に歌う活動を実践している。本実践は、音楽を通して世代を超えた交流を生み出すとともに、学校を子どもだけの教育の場にとどめず、地域の方にとっても学びの場とする「地域に開かれた学校」を目指した取り組みである。学校と地域が協働し、文化を共有・継承していく意義を実感する機会となっている。